

対話を通して自分の思いを分かりやすく文章に書く生徒の育成

岡崎市立甲山中学校 鈴木 慶輝

1 主題設定の理由

自分の思いを正しく、的確に伝える「文章を書く力」は今後の生活を送る上でも非常に重要な能力であるが、SNSの影響や書く機会の減少などの要因もあり、文章を書くことを苦手と感じる生徒が増えているのが現状である。私の担当学級138名の「国語の授業で苦手なこと」というアンケートでも70%を超える生徒が「文章を書く活動」という項目を苦手と答えている。だからこそ、書くことを苦手とする子どもたちに少しでも「文章を書く力」を付ける必要があると思い研究を行おうと考えた。

子ども達の実態を元に子どもたちの課題を探っていくと、文章の書き方が分からない。思いの伝え方が分からないという構成上の問題と、伝えたいことはあっても表面的な思いしか伝えられないという内容的な問題があると考えた。

このような考えの元、本研究である「対話を通して自分の思いを分かりやすく文章に書く生徒の育成」に取り組むことにした。なお本実践の中にある「対話」とは、同じ意見、違う意見をもった生徒との話し合い、文章を書く際の自己の中での文章の推考、書き終わった後の付箋によるアドバイス交換も含めた活動を対話とする。本論では、抽出生徒Aの変容を中心に追っていくこととする。

2 目指す生徒像

子どもの実態を踏まえて、今回の実践を通して以下のような生徒を目指そうと考えた。

- 自分の思いをより詳しく、分かりやすい構成を意識して文章を書くことができる生徒
- 他者との交流を通して様々な視点から対象を取材し、自分の思いを深めてより説得力のある文章を書くことができる生徒

3 研究の仮説と手立て

(1) 研究の仮説

求める生徒像に迫るため、以下のような研究仮説を3つ設定した

仮説1 文章を書く前段階において、複数のモデル文を読み比べ、話し合うことで、文章を書く際に何が必要か、より伝わりやすい文章構成を考えることができるだろう。

⇒〈仮説1に対する手立て〉 ①モデル文の読み比べる場の設定

子どもたちにとって、意見文をいきなり書くのは難しい。そこで、意見文を書く前段階で、複数のモデル文を読み比べ、意見文を書く際には何が大切か話し合う時間を取る。

仮説 2 文章を書く前後で、他者と交流し意見交換や、助言を行う機会があれば、自分の考えをより広げ、さらに深めて説得力のある文章を書くことができるようになるだろう。

⇒〈仮説 2 に対する手立て〉 ②様々な立場の他者との意見交換の場の設定

意見文を書く際には、賛成、反対など立場を示し、それについての根拠を述べるのが一般的な書き方になる。その際に自分の意見のみでは、視点が広がらず、説得力に欠ける文章になってしまう可能性がある。そこで、意見文を書く前段階の構成メモを書く段階で、自分の同じ立場の人、別の立場の人とそれぞれ話し合い意見を出し合う時間を設定する。

⇒仮説 2 に対する手立て ③他者とアドバイスを送り合う機会の設定

文章を書く際は、自分の思いがあふれて読みやすさ、分かりやすさが損なわれていってしまう可能性がある。そこで、文章を書いた後に、付箋を使い、文章をよりよくするためのアドバイスをを行う。

仮説 3 文章を書く際に、文章構成のまとめや、文末や接続語など説得力のある文章を書く際に必要なポイントを示せば、必要なものを取捨選択し、より説得力のある文章を書くことができるだろう。

⇒〈仮説 3 に対する手立て〉 ④構成、文末表現、接続語など説得力のある文章を書くための要素をまとめた「意見文お助けプリント」の活用

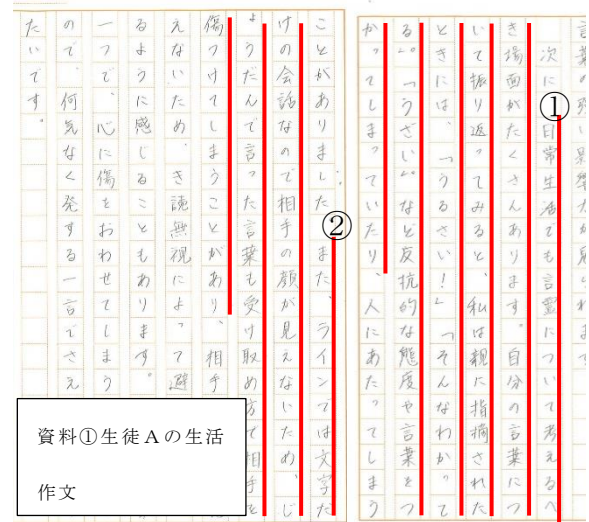
意見文だけでなく、文章を書く際に子どもが苦手を感じる点の一つとして、「どうやって書いていけばいいのか分からない。」という話がよく聞かれる。そこで、文章構成や、文末表現、接続語など、今まで学習してきた内容をまとめたプリントを配付する。

5 単元計画（5 時間完了）

単元計画	学習活動	時間	教師の指導
1	意見文を読み比べて、説得力のある書き方を考えよう	1	3つの意見文を読み比べて、説得力のある意見文には何が必要か話し合わせる。…手立て①
2	説得力のある文章を書くために構成を考えよう	1	タブレットを使い、自分の意見に対応する根拠を調べてワークシートにまとめるように指示する。
3	様々な立場の人と交流し、自分の意見を深めよう	1	・同じ立場の人とグループ活動を設定し、意見を交流することで、視点を広げて文章が書けるようにする。…手立て② ・反対の立場の人と意見を交流する機会を設定することで、自分の意見をより深められるようにする。…手立て②
4	構成メモを元に、意見文を書こう	2 + α	「意見文お助けプリント」を配付し、意見文を書く際の参考になるようにする。…手立て④
5	意見を交流し、より分かりやすい意見文にするにはどうすればいいか考えよう	1	どおすればより分かりやすい意見文になるか、書き上がった文章を交流し話し合うように指示する。…手立て③

6 抽出生徒の実態と期待する姿

本実践での抽出生徒Aは、学習意欲も高く、落ち着いて授業に取り組んでいる生徒である。しかし、文章を書くことを苦手としており、どうやって書きだしていいか分からなくなってしまう傾向がある。友達と話している様子を見ると伝えたい思いはもっているのだが、それをどう表現すればいいのかわからない様子である。資料①は生徒Aの夏休みの生活作文の一部である。



「言霊」というテーマについて書いているものの、下線部①のように、日常の言葉遣いの問題になったり、下線部②のように、言霊による影響ではなく、SNSのマナー的な問題を述べたりするようになっていく。

生徒Aには、手立て①、②で文章構成を学んだり、書き方のアドバイスを生かしたりして自分のもっている思いを分かりやすく文章にまとめていけるようにしたい。

7 実践の考察

(1) 手立て①における実践について

①モデル文の読み比べる場の設定

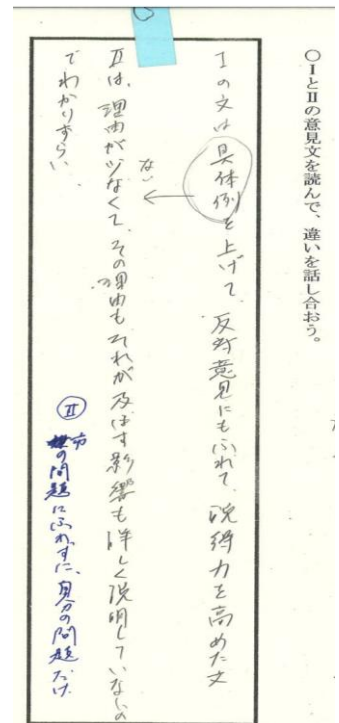
第1時間目に3つの意見文を提示し、読み比べることで説得力のある意見文とはどんなものか考える授業を行った。意見文のテーマとして、少しでも興味をもってもらいたいと考え「岡崎市特別給付金について」というテーマで反対の立場で意見文を書いた。(別紙資料)

授業では、Iの意見文を目指すべきモデル文と設定し、II、IIIのモデル文とそれぞれの違いを見つけるように指示を出した。なお、序論にあたる段落①については、内容に焦点を当てるため、どの文章も同じものとした。

まずは、個人で読み比べを行い、その後グループで意見を交流した。生徒Aはモデル文を読み比べ、資料②の

- T: モデル文IIは反対の意見としてどのようなことが書いてある?
 C1: 緊急災害に対応できないことと、お金が手元にないことと、企業の収入が苦しいからこの先も市のお金があまり入ってこないことです。
 T: そう。①それぞれの理由で気になることはある?
 C2: 具体的な理由が書いてあって分かりやすいです。
 T: 続けて。
 C3: ②色んな立場の意見が書いてあります。
 T: そうだね。どんな立場の意見が書いてある?
 C4: 災害に対応できないことと、お金がないという意見と、企業が税金を払えないということです。
 C5: ③最初の2つは市役所側の立場で、3つ目は企業側の困っていることを中心に書いています。
 T: 色んな立場の意見があると何がいいの?
 C6: たくさんの理由が書ける。
 C7: ④色んな人が反対しているっていう感じになる?
 T: そうだね。相手を説得させたいのだから、自分が思っているだけではなく、色んな人の視点が必要だね。

資料③ 授業記録



資料② 生徒Aの意見

「理由が少なく、その理由もそれが及ぼす影響も詳しく説明していないのでわかりづらい」と書いた。その後のグループの話し合いでも、生徒Aは「筆者の意見だけ。例がない→分かりにくい」と書いた。一方で、モデル文ⅠとⅢの比較については、段落構成より、内容面に注目してしまったため、内容の違いに注目してしまい、段落構成に目を向けることができなかつた。そこで、教師から「段落の役割を考えてみよう」と切り返し発問を行い理解を深めた。

その後、3つのモデル文を読み比べて、「説得力のある意見文を書くにはどうすればよいか」ということをグループで話し合わせ、問いかけた。その様子が前ページ資料③の授業記録である。下線部①のように、立場ということに気付かなかつたため、「理由で気になることはある？」と問いかけたところ、下線部②のような意見を引き出すことができた。そこで立場の確認をしていくと、下線部③のように市役所側の立場だけでなく、企業側の意見も書かれていることが分かってきた。さらに、効果について聞くと、下線部④と出るなど、個人的な理由だけでなく、より多様な視点で反対することで説得力が増すことを感じるようになっていた。生徒Aは授業記録で、「多様な視点で書くのは難しそうだけど、書くと説得力を増すことが分かりました。」と書いてあるように、多様な視点で書くことの有効性を感じてくれたようである。

(2) 手立て②における実践について

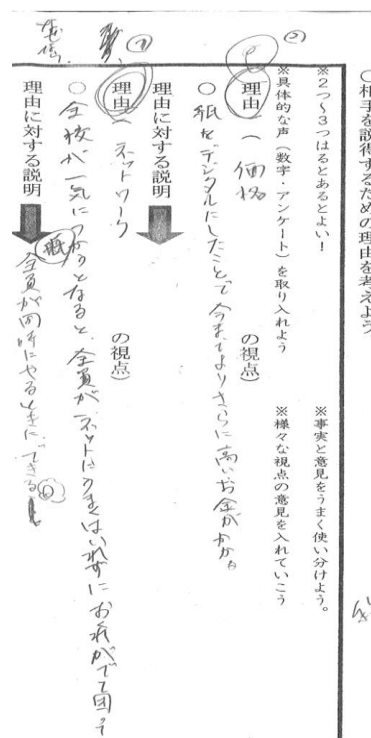
②視点を広げるための様々な立場の他者との意見交換の場の設定

前時に説得力のある意見文の書き方を学んだ後に、第2時間目に実際に生徒達が意見文を書くための取材を行った。書くテーマを「デジタル教科書の導入に賛成か反対か」というテーマで書くことを伝え、自分の立場を明らかにしてから書くように指示を出した。このテーマにしたのは、置き用具問題や岡崎市で導入されたMyタブレットによって、デジタル教科書が注目を浴びている点や、子ども達の興味・関心があるのではないかと思いこのテーマにした。

まずは、自分で取材をする時間を取り、自分の立場で相手を説得できるように、意見に基づく理由を書き出した。生徒が書くワークシートにもどの視点で理由を書いたか分かる



資料⑤ 話し合いの様子



資料④ 構成メモ

ようにしてワークシートを書き出すよう指示を出した。

生徒Aは、デジタル教科書導入に反対の立場で意見文を書き出した。Aは前ページ資料④のように自分で調べて、価格面で「デジタル化することで今よりも高いお金がかかる。」、ネットワーク面で「全校が一気に使うと、全員がネットワークに入れず遅れが出てしまう。」の視点で理由を書いた。前時でモデル文を読んだことで、多様な視点を意識して取材をしている様子が見られた。その後、同意見の生徒でグループを組み意見交換を行った。その様子が前ページ資料⑤の写真である。同意見の生徒3～6人のグループを構成し話し合わせた。話し合うポイント

C1: デジタル教科書の方が値段が高くなって家庭の負担が高くなるんじゃない? Aはどう思う?

A: 全校が使う一斉に使うことによって、①ネットワークが使われにくくなって授業に支障が出る可能性があるかもしれないね。

C2: 確かに。それはあるかもしれないね。

C3: 教科書会社は紙の教科書を使ってくれないと困るんじゃない?

C1: 別に困らないんじゃない? 紙だろうと、データも一緒だし。

C4: でも②紙の製造業者は教科書を印刷できなくなってお金が稼げなくなるかもしれないよ。

A: 確かに! その人の立場からするとデジタル教科書は反対だよな。③その発想はなかったなあ。

資料⑥ 生徒Aの構成メモ

として、話し合った内容で自分にはない視点や、いいなと思うことはメモするように助言して話し合いを行った。上図資料⑥の授業記録は生徒Aのグループ内の発言の様子である。Aは下線部①「ネットワークが使われにくくなって授業に支障が出る可能性がある」という機器や価格の問題ではなく、学校のネットワーク環境についての視点を論じた。それにより、グループ内の他の生徒の考えを深めることができた。一方で生徒Aも下線部②の言葉に下線部③のように反応し、ワークシートにその意見を記述した。最終的に意見文の中にその視点の内容は反映されなかったものの、生徒Aにとって、価格や、ネットワークといった生徒の身の回りのことで反対意見を考えていたところから、製造会社という作り手側の視点の考えを入れたことで、さらなる視野を開拓できたのではないだろうか。授業記録にも「私はタブレットの機能を中心に考えたけど、グループで話し合っ、紙の業者の視点もあることを知れたし、自分が考えたことも深めることができていい話し合いになりました。」と記載してあった。生徒Aにとっては、話し合いをすることでより自分の視野を広げられた時間となった。

その後、第3時間目に反対派の意見を聞く時間を設定した。自分とは反対の立場の意見を聞くことで、相手の考えが分かり、その意見に対する反論が書けるようになるのではないかと考えた。前時で同じ立場の意見を聞き視点を広げたので、その意見を反対派のグループに伝えに行き、それをお互いに繰り返すという時間にした。このように、他者との対話を通して、自分の頭になかった考えに触れたり、自分の意見をさらに深められたりする姿が見られたのは収穫であったように思う。反対派の意見を聞くことで、生徒Aは「タブレットのアプリを使うことでよりよい学習へつながる」というタブレット賛成派の意見からその意見に対する反論をグループで話し合い、「便利かもしれないが、コロナ禍で家庭の収益が落ちている中でお金がかかるもの

生徒Aは内容に関するアドバイスをもらえなかったものの、何人かの子にアドバイスを送っていた。その一部が資料⑧である。ある生徒の反論に対する意見に対して、「置き用具のよさをもっと主張するといいと思う」と書き、より具体的に主張するように助言をすることができていた。また、よく書けている生徒には「具体的で分かりやすい」と助言するなど、効果的なアドバイスを送ることができた。

一歩かけというより
置き用具のよさをもっと主張する方がいいと思う

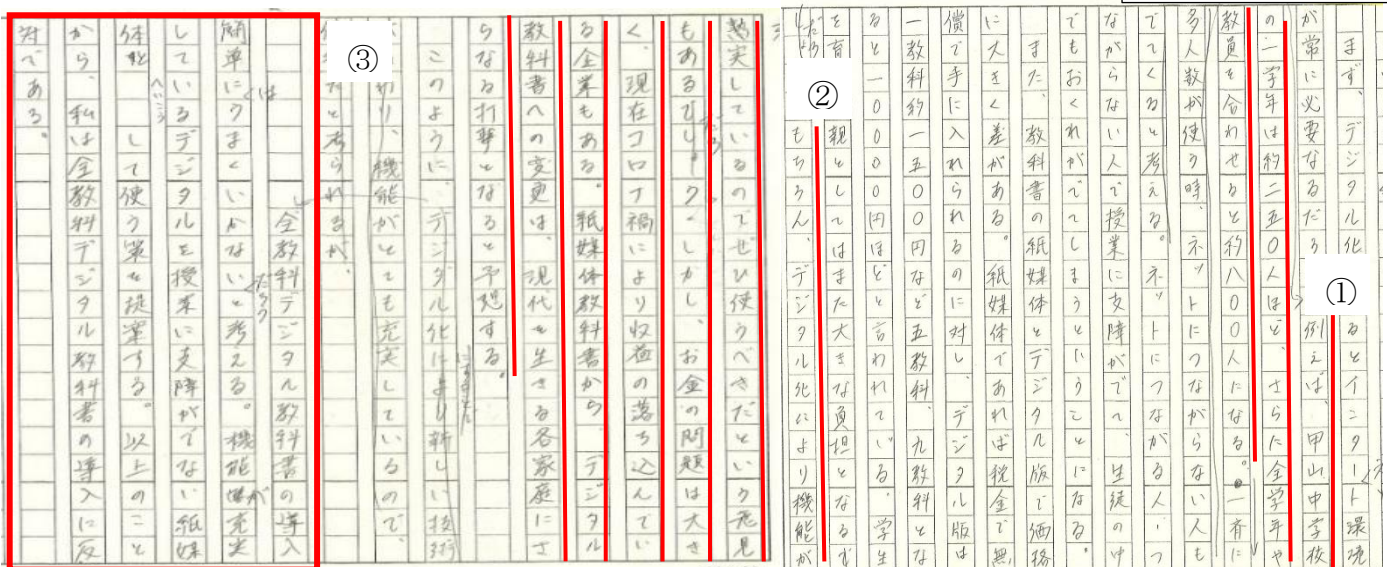
資料⑧ 生徒Aが書いた付箋

7 成果と課題

(1) 生徒Aの文章について

生徒のAの出来上がった意見文の一部が下図資料⑨である。なお、この意見文は一度自分で読み返し、自分自身で練り直しを行ったものである。まず、下線部①のように手立て①でモデル文を読んだことで、自分の意見を、具体例をもって述べることで、手立て④のプリントを活用して書いたことが伝わってくる。さらに手立て④によって推測の文末表現である「だろう」を意識して使おうとしている様子が見えてくる。

資料⑨ 生徒Aの文



内容面については、自分の意見を述べる際に4ページの手立て②で取材した内容を具体的な値段や人数などの数字を用いて書き表すことができています。また、下線部②の「もちろん、デジタル化により機能が充実しているのでぜひ使うべきだという意見…現代を生きる各家庭にさらなる打撃になると予想する。」とあるように、手立て②において、反対派の他者と話し合っただけで深めた意見を自分の言葉で述べている。さらに枠線部③の結論を述べる部分では、様々な他者と話し合ったことを踏まえ、デジタル教科書の問題点をあぶり出し、「紙媒体と並行して使う案を提案する」と、話し合いを踏まえ新たな意見を提示することができています。

一方手立て③の付箋に関するアドバイスでは、生徒Aには誤字脱字のアドバイスの

みだったため、そこから大きく直すことはなかった。

(2) 仮説に対する成果と課題について

仮説1・・・Aはモデル文を通じて、資料②の記録のように、具体的かつ客観的な説明が必要なことを多様な視点で文章を書くことの有効性を感じることができた。また、意見文を書く際も、今回のモデル文を参考に書いていたこともあり、資料としての手立てはもちろんのこと、目指すべきゴールとしてのモデル文の役割もしっかり果たすことができていた。今後は、モデル文を比較する際に、より分かりやすくという視点が重要になっていくので、教師側のモデル文の内容の精選の必要があると感じた。

仮説2・・・Aは他者との話し合いと通して様々な意見に触れ、自分の意見を深めていった。前ページの意見文における枠線部③の結論部分は、自分とは反対の立場の意見を聞くことで生まれた意見だと思う。また、下線部②においても、反対派の意見を聞いた上で意見を深め、それに対する反論を書くことができた。もちろん、話し合った内容を全て書いたわけではなかったが、生徒Aに確認したところ、「自分が書きたいものを取捨選択していく中でそうなった」と語っていた。文章には反映されなくても、Aの視野を広げ、より説得力のある内容で文章を書こうと考えたことを考えると、Aにとってこの手立てが有効だったように思う。取材したことを精選し、必要なものを選ぶことも分かりやすく相手に伝えるためには必要な力である。その点においては視点を広げたことでより文章を書きやすくなったのでは無いかと思う。

一方で、アドバイスを送り合う活動については、そういう経験があまりないこともあって、誤字脱字のチェックのみにとどまった。これについては、経験不足であることから、機会をなるべく増やすようにしていき、どの部分を見るか、もう少しポイントをしばって指示するなど、指示の出し方などを工夫する必要があると感じた。

仮説3・・・「お助けプリントの配付」によってプリントを見ながら、書き進める生徒の様子が見られた。7ページの意見文の下線部②だけでなく、文章中に「だろう」や「予想する」などの文末表現や接続語は「お助けプリント」を生かして適切に使えていたからこそできていたと考える。そういった意味ではこの手立てについては有効だと感じた。もちろん、情報量が多かったため、生徒A以外では、「どの接続詞を使えばいいか良く分からなかった」という声も聞かれた。今までの授業で学んだ内容を出したつもりではあったが、そういった意味では、プリントに載せる情報については吟味する必要もあるのではと感じた。

(3) 今後の課題

書く実践は苦手意識もあり、どうしても時間と労力がかかるものである。今後は、子ども達がより主体的に取り組めるような手立てを考えていきたい。また、書いた文章を練り直す活動については、経験がないこともあってうまく取り組めなかった。文章を直すことでよりよい文になるという達成感を感じさせるような実践を行いたい。